

連峰

Renpoh

No. 326

発行日●平成 29 年 12 月 31 日
発行人●飯田メディカルヒルズ
編集 IMH 広報委員会
長野県飯田市毛賀 1707 番地
TEL 0265-26-8111 (代)

特集

医療安全

当院では、患者様に安全で安心していただける医療の提供を目指しています。



目次

特集

P2 ~ P3 当院の医療安全活動

P4 医薬品の安全使用について

P4 当院のリハビリテーションセンターの医療安全対策

P5 お薬を服用される皆様へ

P6 明日のリハビリを考える会

~金城大学 澤 俊二 先生~

当院の医療安全活動

医療安全管理委員会 副委員長・臨床工学技士主任補 申原 恵太



患者様に安全な医療サービスを提供することは、医療の最も基本的な要件の一つです。このため医療機関は、医療安全に関する職員の意識の啓発をすすめるとともに、医療安全を推進する組織体制を構築していくことが求められます。(参考1)

当院も医療安全管理委員会を設け、安全文化を根付かせるための様々な活動を行っています。

医療における理想の安全文化とは、職員が患者様の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方、およびそれを可能にする組織の在り方と言えますが、医療を行うものが人間である以上そこには必ずミスやエラーが起こりえます。人間は間違えることを前提とし、個人の責任を追及するのではなく、システムの問題として捉えて改善しなくてはなりません。そのためインシデント・アクシデントレポートを活用し、実際に起きてしまった事故だけでなく、事故になりえた、またはなりそうだった、多くの事例を報告、集計しており、その数は月に100事例をこえています。

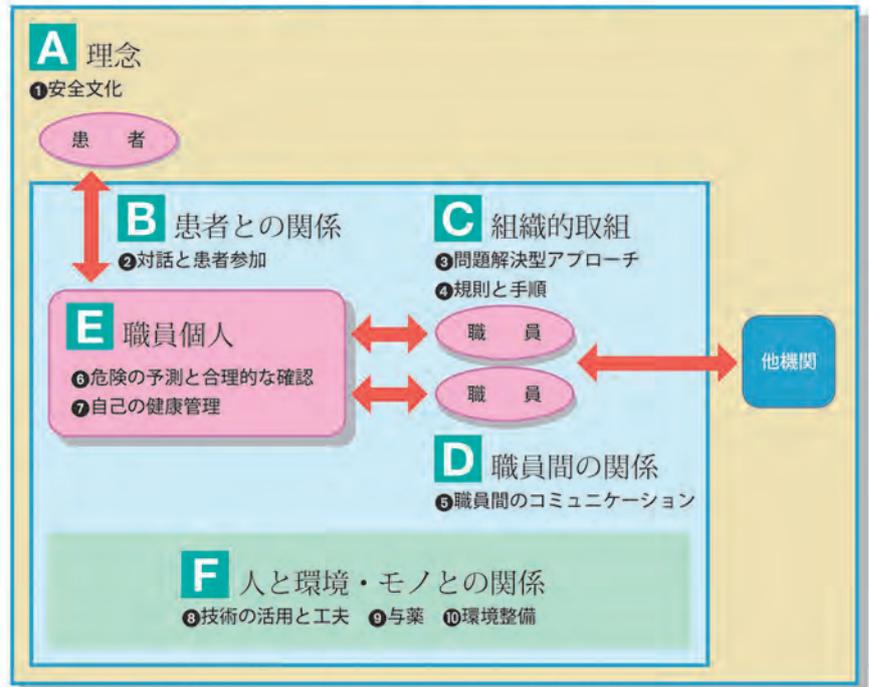
多くの事例を集める理由として、『ハインリッヒの法則』より、1つの重大なミスの下に29の軽微なミス、300のヒヤリハット（ミスになりそうだったもの）があるとされているためです。

事故を防ぐためには、小さなミスから拾う必要があります。レポート集計から当院の最も多い事例は、転倒・転落であることがわかっています。

昨年は玄関でのスリッパ履き替えの際、転倒事例が相次いだため、対策として手すりの設置、履き替えが困難な方のためにブザーの設置を行いました。(写真1)

その他の活動として、職員の医療安全に対する理解や知識を深めるため年に数回の研修を院内・院外で行っています。

医療安全の全体構成



(参考1) 出典：厚生労働省医務局「安全な医療を提供するための10の要点」

P1「医療安全の全体構成」



(写真1) 外来玄関（手すり・ブザー）

今年は医療事故の根本にあるコミュニケーション不足に着目し、良好なコミュニケーションを得るためにはどうすればよいのかをロールプレイ形式の実習で学ぶ研修を行いました。(写真2)



(写真2) ロールプレイ形式の実習の様子

実際に医療事故の多くが専門的な知識や技術によるミスではなく、単純なコミュニケーション不足や確認不足からミスが引き起こされていると言われています。

飯田・下伊那地区の病院が連携・協力して医療安全に取り組む為、南信州医療安全ネットワークという組織が構成され、当院も参加しています。地域で共通した医療安全活動や研修を行うことで飯田・下伊那地域の患者様がどこの病院に行っても同様の安全な医療が受けられるよう地域連携をしています。

医療ミスを完全に防ぐことは困難ですが起きてしまったことへの対策、再発防止を繰り返し行い、患者様に安全で安心していただける医療の提供を目指しています。しかし、そのためには患者様の協力も不可欠となります。医療は患者様のために行うものです。その主役の患者様に、医療に参加していただくことが安全を提供するのに不可欠となります。そのための説明、対話は医療者側が行わなければならないが、患者様との相互理解を深めるために是非ご協力とご理解をいただきたいと思えます。(参考2)

解説

- 医療は患者のために行うものです。その主役である**患者が医療に参加することが重要**です。
- このことは安全に医療を提供していくためにも大切です。
- 患者と職員との対話**によって、医療内容に対する患者の理解がすすむとともに、相互の理解がより深まります。

具体的な取組に向けて

十分な説明

- ▶医療内容について十分に説明しましょう。
- ▶日々の診療の場で、その内容や予定について説明しましょう。

患者との対話

- ▶一方的な説明ではなく、患者との対話を心がけましょう。



雰囲気づくり

- ▶患者が質問や考えを伝えやすい雰囲気をつくりあげましょう。

(参考2) 出典：厚生労働省医政局「安全な医療を提供するための10の要点」
P3「安全高める患者の参加対話が深める互いの理解」

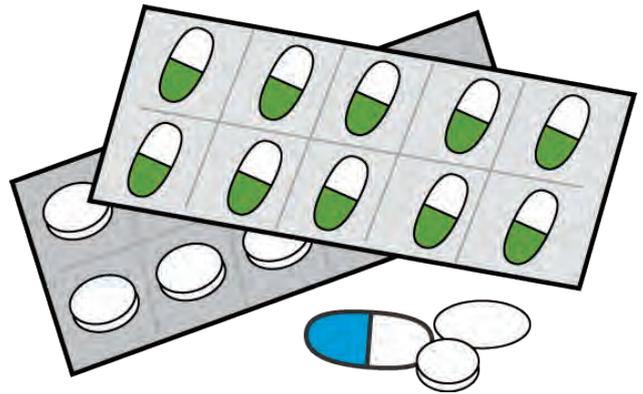
医薬品の安全使用について

医薬品安全管理責任者・薬剤部次長 山崎 祐樹



「医薬品」は患者さんの命を守ったり、体を楽にしたりするもの。それ故に薬とは患者さんを幸せにするために使うものだと、私は思っております。しかし、「クスリ」を反対から読むと「リスク (= risk) : 危険度」となり、使い方を誤れば、自分の身を危険にさらすこととなります。患者さんの安全のために、「医薬品」を正しく、かつ安全に取り扱う必要があります。そのため、医薬品を取り扱う医療機関には「医薬品安全管理責任者」が置かれ、医薬品を適正に使用できるように指導・管理などの活動を行っています。

医薬品の安全使用について、皆さんにお願いがあります。(右ポスター参照)「薬は包装シートから取り出してお飲み下さい」です。包装シートのまま誤って薬と一緒に飲んでしまうケースが増えています。この誤飲は1970年からの25年間で635件も報告されています。誤って包装シートごと飲み込むと食道や胃に突き刺さり、穴をあけるなど重大な障害をおこすことがあります。このような誤飲を防ぐためには、包装シートを1錠ずつ小さく切り離さないで、そのつど薬だけを取り出すようにしてください。どうかよろしくお願いします。



当院リハビリテーションセンターの医療安全対策

総合リハビリテーションセンター 理学療法士主任 遠藤 聖斗



当院リハビリテーションセンターでは、医療安全対策の一つとして、新人職員を中心にKYT(危険予知トレーニング)のワークショップを行っています。実際の患者様の生活環境や施設利用者が利用する環境を例題に、その中に潜む危険因子を予測し、対策・解決案が出せるようにチームトレーニングを行っています。ワークショップを通して、我々が何気なく過ごしている環境の中には、患者さんや利用者さん目線になると多くの危険が潜んでいることに気づかされます。その危険を常に感じ取れるようになることが重要だと思われまます。

その他、患者さんへの誤介助や介助・誘導時の転倒を防止するためにリハビリ、病棟スタッフを対象に年に数回、患者さんの介助・誘導方法の練習を行っています。また、練習を通して介助者側の身体の正しい動かし方を学ぶ機会となっています。物理的な環境のみでなく安全な医療を提供する側としても身体のケアも医療安全対策のひとつではないかと思われまます。



お薬を服用される皆様へ

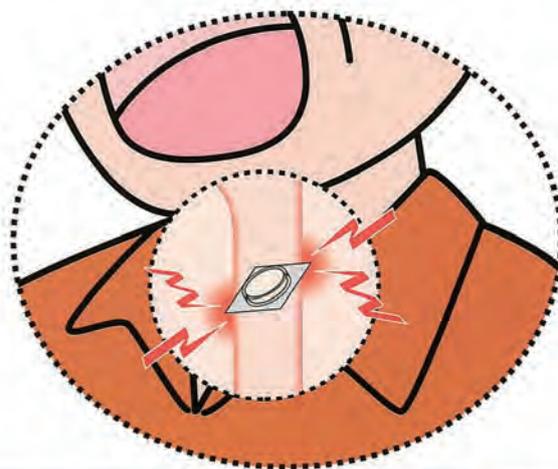
錠剤の取り出し方



**おくすりは、
包装シートから取り出して
お飲みください!**



**包装シートのまま飲んでしまうと
のどや食道などをキズつけ
大変なことになります。**



※ 幼児、高齢者の方が服用されるときは、保護者、介護者などの方に御注意頂きますよう、お願い致します。

輝山会記念病院

(社)日本薬剤師会 (社)日本病院薬剤師会 日本製薬団体連合会

明日のリハビリを考える会

～金城大学 澤俊二先生～

総合リハビリテーションセンター 作業療法士 坂野 建太



平成29年10月27日(金)、明日のリハビリを考える会が開催されました。金城大学の澤俊二先生をお招きし、「当事者の主体性を引き出すリハビリテーションとは 自立支援とは ～10年間追跡調査から見てきたこと～」についてご講演いただきました。澤俊二先生は日本作業療法の先駆者としてご活躍されています。地域リハビリテーション、地域保健、介護予防を中心に深い知識と経験をお持ちになられ、数多くの論文を発表され、本も出版されております。



金城大学 作業療法士学科
医学博士 澤俊二先生

講演では、当事者が主体性を引き出すために必要なリハビリテーションと自立支援について話をされ、最初に自立と自律の違いについての説明がありました。自立とは「他の力によらず自分の力

で身を立てること」であり、自律は「外的要因に脅かされない自立した状態を創り上げる能力」の事をいいます。当事者が主体性を引き出すためには、自律し自立を目指すことが重要であり、現状打破の創作活動が必要になります。そのため、新しい医療・介護システムの稼働や、当事者の主体性を引き出すようなアプローチをしていくことが求められています。

私は作業療法士として2年目になります。介入初日には作業面接を行い、当事者から困っていることや今後行いたい作業、周囲から期待されていることについて話を聞きます。目標を共有しながら訓練を進めることで、本人の主体性を引き出しながらアプローチできるよう心がけています。しかし、訓練内では当事者ができる動作を手伝ってしまうことや、過介助になってしまうことが多いため、気をつけていく必要があると感じました。今回の貴重な講演を生かし、当事者が主体的に行動できるよう支援していければと思います。

